

コンパス薬局瀬谷スキルアップ勉強会

第108回『ロンサーフ配合錠』

大鵬薬品工業 坂 太祐様

2021.10.19 松下 武憲

参加者：小西、伊藤、島崎、松下、吉川、渡辺、小林、塩谷

「ロンサーフ配合錠」は、抗がん作用をもつ主成分のトリフルリジンと、補助成分のチピラシルが配合されている。トリフルリジンは、がんの遺伝子が複製される際、チミジンの代わりに遺伝子構造内に取り込まれ、その機能障害を引起こすことで抗腫瘍効果を発揮する。一方、チピラシルの配合目的は、トリフルリジンの分解を抑え作用を持続させるためである。すなわち、トリフルリジンの分解をうながす酵素チミジンホスホリラーゼを阻害し、トリフルリジンの血中濃度を維持する役目をする。

【効能・効果】

- ・ がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌
- ・ 治癒切除不能な進行・再発の結腸癌
- ・ 治癒切除不能な進行・再発の直腸癌

【用法用量】

- ・ 初回投与量（1回量）を体表面積に合わせて次の基準量とし（トリフルリジンとして約35mg/m²/回）、朝食後及び夕食後の1日2回、5日間連続経口投与したのち2日間休薬する。
- ・ これを2回繰り返したのち14日間休薬する
- ・ これを1コースとして投与を繰り返す
- ・ なお、患者の状態により適宜減量する
- ・ 体表面積1.07m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）35mg/回（70mg/日）
- ・ 体表面積1.07m²以上～1.23m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）40mg/回（80mg/日）
- ・ 体表面積1.23m²以上～1.38m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）45mg/回（90mg/日）
- ・ 体表面積1.38m²以上～1.53m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）50mg/回（100mg/日）
- ・ 体表面積1.53m²以上～1.69m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）55mg/回（110mg/日）
- ・ 体表面積1.69m²以上～1.84m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）60mg/回（120mg/日）
- ・ 体表面積1.84m²以上～1.99m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）65mg/回（130mg/日）
- ・ 体表面積1.99m²以上～2.15m²未満：初回基準量（トリフルリジン相当量）70mg/回（140mg/日）

- ・体表面積2.15㎡以上：初回基準量（トリフルリジン相当量）75mg/回（150mg/day 日）

【警告】

・本剤を含むがん化学療法は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで本療法が適切と判断される症例についてのみ実施すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。

・フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤、これらの薬剤との併用療法（ホリナート・テガフル・ウラシル療法等）、抗真菌剤フルシトシン又は葉酸代謝拮抗剤（メトトレキサート及びペメトレキセドナトリウム水和物）との併用により、重篤な骨髄抑制等の副作用が発現するおそれがあるので注意すること。

【禁忌】

- ・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- ・妊娠または妊娠の可能性のある女性

【主な副作用】

・悪心：疲労：食欲減退：下痢：嘔吐：口内炎：便秘：無力症：脱毛症：腹痛：イレウス

【重大な副作用】

・好中球減少：白血球減少：血小板減少：骨髄抑制：貧血：感染症：リンパ球減少：発熱

性好中球減少症：肺炎：敗血症：発熱：間質性肺疾患：咳嗽：呼吸困難

【考察】

今回紹介いただいたロンサーフは国内での臨床試験では、全生存期間の延長効果などの有効性が確認されている。

本薬の承認は全世界で日本が最初であり、標準的な治療が困難で治癒切除不能な進行または再発の結腸・直腸癌の治療で新たな選択肢となると期待されている。

錠剤タイプの抗がん剤であり簡便に用量が調節でき服用できるのがメリットであるが2種の規格の異なる錠剤の個数を組み合わせて服用することもあるため高齢者では用量調節直後の服用量間違いが発生しやすくなる、その際には錠剤判別ブリスターシート等の資材の使用も考慮に入れる必要がある。

また、投与と休薬のサイクル・休薬の目安の症状についての理解も高齢者では1回聞いただけでは理解できないことも考えられるため投薬後も定期的なフォローアップが必要であろう。

その時点でのロンサーフ投与量、投与・休薬サイクルについて薬剤師が理解し簡便に服薬指導を行う、ロンサーフ投与中の吐き気・嘔吐・悪心・疲労感などの患者さんの副作用のサインを感じとり中止指導からの医師への情報提供が薬剤師には必要であると考えた。

【質疑応答】

・患者さんが5日服用2日休薬のところ7日連日服用した場合の指導は？

→投与中止し医師・病院に連絡。

・体表面積を求める式が2種類あるが？

→Du Boris 式と藤本式が存在、病院では主に Du Boris 式を使用している。

・透析患者に使用できるか？

→慎重投与・検査値モニタリングしながら使用できる。